

環 境 報 告 書

2026 年 8 月報告

ふりがな	なべりんけんこうかぶしがいいしゃ		認定 ランク	三つ星
事業所名	鍋林建工株式会社			
認定部門	■ ゼロカーボン推進部門 ■ ごみ減量推進部門 ■ エコ・コミュニティ部門			
概 要	所在地	松本市大字島内 3501-1		
	代表者名	代表取締役社長 倉科 明		
	事業規模 (主な事業内容 ・従業員数)	建設業（一般住宅設計施工、公共工事、防水工事、左官工事、 鋼構造物工事、塗装工事、とび・土工工事、解体工事） ・従業員 2 8 人		

○ 環境に配慮した取組みの内容

環境に対する理念・方針	1.環境マネジメントを理解し、PDCA サイクルにより継続的改善を行う。 2.環境関連法規を遵守する。 3.環境負荷軽減。 ①二酸化炭素排出量の削減 ②化学物質の低減とグリーン調達の推進 ③廃棄物と水資源使用の削減とリサイクル活用の推進 ④省エネでエコな建築工法の推進 4.SDG s の取組みと合わせた相乗的な活動をしていく
環境に関する取組目標	二酸化炭素排出量削減 電力、ガソリン、灯油使用量削減 廃棄物排出量削減 総排水量削減 省エネ住宅施工件数増加 OA用紙使用量削減 グリーン購入数（水溶性塗料）増加 社会貢献活動（清掃活動等）実施

具体的な取組内容	電力使用量削減 ・ エアコンの温度設定（事務所冷房 28℃、暖房 20℃） ・ O A 機器の効率化使用、P C 電源 O F F ・ 昼休みの 60 分間消灯 ガソリン使用量削減 ・ アイドリングストップ（エコドライブ 10 の実施） ・ 積載オーバー、不要な荷物は積まない ・ 月報距離、給油量を記録する 灯油使用量削減 ・ 暖房温度管理 20℃ ・ 時間外事務所使用の短縮 廃棄物排出量削減 ・ 3 S 活動を進め、資材置き場での資材の定位置・定量化を推進 ・ 分別徹底とリサイクル（特に古紙、缶ビン） ・ 両面コピー、裏紙使用、コピー枚数削減 ・ 社内文書の電子化 エコバックの使用推進 総排水量削減 ・ 水道水出し過ぎ注意、止水確認 ・ 洗い物はまとめて洗う グリーン商品の購入推進 ・ グリーン商品を優先して使用する ・ 従業員に周知する O A 用紙使用量削減 ・ コピーの裏面使用、社員の削減意識の徹底 ・ 会議のプロジェクター利用、電子媒体の利用 省エネ関連工事の受注 ・ エアパス工法他省エネ工事の推進と後方活動 ・ グループ会社の会報を通じて PR する 社会貢献活動 ・ 鍋林グループ全体で行う事業所周辺清掃活動 ・ 所属団体が主催する地域貢献活動に参加。
-----------------	--

実施結果（成果）	2025 年度実績（全社） 二酸化炭素排出量削減：2024 年度立案目標 → 115.6%：達成 電力使用量削減：同上 → 100.2%：達成 ガソリン使用量削減：同上 → 112.1%：達成 灯油使用量削減：同上 → 128.0%：達成 廃棄物排出量削減：同上 → 116.5%：達成 水使用量削減：同上 → 83.1%：未達成 OA用紙使用量削減：同上 → 103.9%：達成 省エネ住宅の受注：同上 → 4 件超過 121.1%：達成 グリーン購入：同上 → 14 件超過 240.0%：達成 社会貢献活動：同上 → 12 件のみ 92.3%：未達成
課題・問題点と その改善に向けた取組み	2025 年度を取組項目は 6 項目を大幅達成でき、2 項目が適正達成ができた。未達は水使用量と地域活動の回数であった。達成できた要因は燃料の使用量が減ったことと電気の使用量は減ったことであるが、これは排出係数が下がったことが大きい。水使用量は現場での使用が増えたことと漏水が影響している。地域活動については年間 4 回の清掃活動を必ず実施しているので、2026 年度は回数を増やしたい。建設業界は不安定な中東情勢により、建材の原料であるナフサ不足による品不足と価格高騰で大変厳しい状況下にある。代替品の開拓や工法の変更など当社が対応できることは取り組んでいきたい。それが環境保全活動に結びついていけばよいと思う。
その他、 アピールポイント等	昨年、社員全員にエコバックを配布して、エコバック使用を推進した。今年の安全衛生大会の記念品は、ソフトクーラーバックとした。これはエコバックにもなり、工事現場ではクーラーバックとして使用して、水分補給、対応を下げる備品をいれ、熱中症予防としても利用できるようにしていく。